

ポスター発表 抄録

P-1

運動機能維持向上におけるプログラムの現状と課題
～福山市の老人福祉施設におけるアンケート調査より～

○千後瀧 聡子 △山下 雅彦（福山平成大学）

キーワード：運動機能、福祉施設、プログラム

デイケアは1940年にロンドンで始まり、以後各国に広がった。欧米では入院中心主義から地域ケアへという流れの中で位置づけられてきた。日本では1953年に浅香山病院で患者社交クラブ的な集団をつくり、生活療法・レク療法を始めたことが発祥だといわれている。

そこで本研究では、広島県福山市圏域の老人福祉施設の運動プログラムの実態を明確にすることを目的とした。質問項目は、施設の概要（4変数）、利用者の男女比（1変数）、職種（2変数）、機関が保有している設備（1変数）、実践しているプログラム内容（11変数）の5要因群、19変数であった。

P-2

中山間地域と都市地域における自然体験活動の意識調査
～親と子どもの期待と不安に着目して～

○寺田 祐子 △山下 雅彦（福山平成大学）

キーワード：自然体験活動、親子、期待、不安

アメリカ・キャンプ協会の定義によれば、キャンプとは、野外での集団生活を通して、創造性、レクリエーション、教育の機会を提供する場であり、有能な指導者と自然環境資源を活用することによって、個人の知的、身体的、社会的、情緒的発達に貢献するものである。しかし、社会の変化に伴い、自然の中で子ども達が集団で活動する場がますます減少してゆく傾向にある今日、自然体験活動は子どもの成長、発達にとっても貴重な経験であると考えられる。

そこで、本研究では、中山間地域と都市地域の小学生にアンケート調査を依頼し、全学年の親と子どもにおける自然体験活動の意識の違いを明らかにすることを目的とした。

調査項目は、個人的属性、自然体験活動への意識、期待度（満足度）、不安度である。